

THE HOKURIKU INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

# ハイアック・ニュース HIAC NEWS

一般財団法人 北陸産業活性化センター会報誌

vol.114



ネットも、スマホも！ケーブルテレビ

# HIAC NEWS

## INDEX

- 01 北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)設立に向けた活動概要について
- 04 新事業創出助成事業
- 05 北陸RDX活動報告(2024.4~2024.9)
- 06 2023年度 事業実績の概要
- 07 2024年度 事業計画の概要
- 08 新賛助会員のご紹介
- 09 その他活動報告(2024.4~2024.9)
- 10 賛助会員ズームアップ「株式会社ケーブルテレビ富山」



◎表紙画像 [画像提供:株式会社ケーブルテレビ富山]

[ 上 ] ヘッドエンド設備 (CATV事業者が受信した各種放送を、業務区域の視聴者宅に再送信するための設備)

[左下] コミュニティチャンネル 編集風景

[右下] 「ケーブルテレビはテレビだけじゃない! ネットもスマホもケーブルテレビ!」キャンペーン、テレビCM広告 [イラスト: nifuni]

# 北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称) 設立に向けた活動概要について

当財団は、昨年度より、北陸地域におけるフェムテック産業の振興により、女性が活躍しやすく、明るく希望に満ちた社会(働く・学ぶ・住む)の実現に向け取り組んでいます。

昨年度開催した「北陸地域におけるフェムテック産業振興の可能性研究会」(全4回)において、女性の健康に関する様々な社会的課題へのソリューション提供により、北陸地域におけるフェムテック産業の振興を目指すべく、必要な施策を検討した結果、来年度に産学官医民商の連携による「北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)」を設立して、推進していくことが望ましいとの結論にいたりしました。

今年度は、来年度の『北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)』の設立に向け、組織・体制の整備や産学官医民商の連携による共同研究の創出、普及啓発等に取り組んでいきます。

## 2024年度の活動概要

### (1)「第1回 フェムテック産業振興研究会」の開催

- ◆日 時：2024年8月27日(火) 13:30～16:30
- ◆場 所：石川県政記念しいのき迎賓館セミナールーム B (オンライン併用)
- ◆出席者：会場 22名(講師4名、事務局6名を除く)、オンライン 67名
- ◆後 援：北陸経済連合会、一般社団法人日本フェムテック協会、とやまヘルスケアコンソーシアム、石川県次世代ヘルスケア産業協議会、福井しあわせ健康産業協議会
- ◆協 力：経済産業省中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

#### 1. 第1回研究会の要旨

統一テーマ：「働く女性の健康と健やかで幸せを実現するフェムテックの動向」

- 国内外で発展途上にあるフェムテックの最新動向や成功事例、地域企業での女性活躍と健康に向けた取組について紹介するとともに、企業(職域)を対象としたフェムテック技術の実現可能性と経済的な利点を解説する。
- 北陸地域の持続可能な成長とイノベーション創出に向け、男女平等が推進され、女性が活躍しやすく、明るく希望に満ちた社会(働く・学ぶ・住む)を実現するためのビジョンを共有する。

#### 2. 講演概要

##### ①「国内のフェムテックの現状と今後」

- 事業構想大学院大学 特任教授 西根 英一 氏
- ・国内におけるフェムテックビジネスの現状
  - ・北陸地域においてフェムテックプロジェクトをグロースするための事業展開と社会実装への道のり

##### ②「海外におけるジェンダー・イノベーションとフェムテックの動向」

- 芝浦工業大学 准教授 平田 貞代 氏
- ・ジェンダー・イノベーションとフェムテックの経緯
  - ・海外事例
  - ・今後の展望

##### ③「地域企業における働く女性の健幸課題と対策等」

- 立山科学グループ 執行役員 篠原 おりえ 氏
- ・立山科学グループにおける女性活躍推進の取組
  - ・立山科学グループにおけるアンケート結果に基づく女性の健幸課題

##### ④「バイオデザインにおけるフェムテック領域の開発事例」

- 東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長 前田 祐二郎 氏
- ・バイオデザインについて
  - ・バイオデザインにより開発されたフェムテック製品・サービス事例(海外)



### 3. パネルディスカッション概要

#### 「働く女性のウェルビーイングー職域におけるフェムテックの可能性ー」

講演いただいた4人の講師に登壇いただき、西根氏をモデレーターとして、会場からの発言も交えて実施した。

以下のディスカッションテーマについて、ビジネス、研究・技術、社会・市民、行政の視点から、フェムテックはこれらはどう変える可能性があるか、意見交換した。

- ①伝統的な役割分担意識の下で、育児や介護等を抱え込む女性は、非正規雇用という形で労働市場に参加することが多い。
- ②正規雇用の女性は男性と同じように働きながらも、正当な評価を受けられず、昇進・昇給が遅れることがあるとともに、幹部になる人材育成までに至っていない。
- ③日本型雇用環境は、世界各国に比較して長時間労働である。女性でその労働環境に対応できた人は高い賃金を得ているが、対応できない女性は高い賃金を得るに難しく、不公平な仕組みになっている。
- ④日本では、女性の年齢階層別労働力率は30-34才がへこむ特性になっている。出産と育児を機に休職・退職するため、谷ができる。スウェーデンやドイツ、米国等では、このような特性は見られない。
- ⑤職域におけるフェムテックの“社会実装”に向けて、国や自治体はどのように取り組めばよいのか企業はどのように仕組みを変え、取り組めばよいのか。



### 今後の予定

日時・会場等	プログラム(案)
<b>【第2回】</b> 10/25(金) 13:30-15:30 オンライン	<b>『テーマ：地域社会における働く女性の健康課題と対策』</b> <b>ー地域へのフェムテックの健全な普及・動向についてー</b> 市民にとって身近な暮らしの場である地域は急速に変わり、近隣等の関係、世代間の交流等におけるつながりの希薄化が進んでいる。従来つながりが担ってきた「互いに助け合い、安心・安全な暮らしを守り、人を育てる」機能が失われつつある。地域において、こうした変化が今後一層進展することが見込まれる中、女性が中心となって活躍する地域活動(社会的健康)の重要性について知見を得て、フェムテックによる対策を考える。 ◆講演 ●「地方におけるフェムテック ～地域がより選ばれるために～」 一般社団法人日本フェムテック協会 地域統括責任者 福井支部 小口 彩子 氏 ●「local が世界を変える ～地方中小企業の取組～」 株式会社平田不動産 代表取締役社長 平田 稔 氏 ◆パネルディスカッション 「地方創性のために重要な女性活躍推進 ～地域におけるフェムテックの可能性～」 [モデレーター] 事業構想大学院大学 特任教授 西根 英一 氏 [パネリスト] 一般社団法人日本フェムテック協会 地域統括責任者 福井支部 小口 彩子 氏 株式会社平田不動産 代表取締役社長 平田 稔 氏 芝浦工業大学 准教授 平田 貞代 氏 東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長 前田 祐二郎 氏
<b>【第3回】</b> 12/13(金) 13:30-15:30 オンライン	<b>『テーマ：学校・職域における若い女性(=健康無関心層)の健康課題と対策』</b> <b>ー若い女性の女性ヘルスリテラシーとQOL 向上はどのようにするかー</b> 日本人女性の平均寿命は87歳だが、健康寿命は74歳で、13年の差がある。健康寿命を延ばすためには、若い時からのケアが重要であり、若い女性へのフェムテック適用を考える。
<b>【第4回】</b> 2/28(金) 13:30-16:30 対面+オンライン 会場 未定	<b>『テーマ：女性が性別・年齢に関係なく活躍でき、誰もが働きやすい社会を実現するには』</b> <b>ー北陸地域でのフェムテック産業振興はどういうものになるのかー</b> 北陸地域の若い女性は、首都圏方面の大学へ進学し、卒業後は首都圏で就職する等、地元へ戻る女性は少ない。この女性の流出を止めようとする人は多いが、東京の一極集中に対する対策は非常に難しい。発想を転換し、地域以外に住んでいる女性を地域に引き付ける施策としてフェムテックを考える。 ・北陸ソーシャルフェムテック協議会(仮称)設立の説明(事務局)

## (2)「デザイン思考による事業創出ワークショップ」の開催

- ◆日 時：2024年9月12日（木）、9:00～17:00
- ◆場 所：北国ビルディング（オンライン併用）
- ◆講 師：現地2名
  - 東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長  
ジャパンバイオデザイン Co-director 前田 祐二郎 氏（歯科医師、医学博士）
  - 東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門 特任助教  
ジャパンバイオデザイン Assistant Faculty 柿花 隆昭 氏（理学療法士、障害科学博士）
  - オンライン対応ファシリテーター2名
- ◆受 講 者：現地4名、オンライン6名

◆内容	イントロ
	講義
	アイスブレイク
	講義
	講義/ワーク
	講義/ワーク
	講義
	講義/ワーク
	講義
	まとめ

具体的な商品について成功例や失敗例について考察をしながら、真のニーズは何かということをつ捉えることの重要性について講師の先生から講演がありました。技術があるからなんとなく作った、利用者のリクエストで作った、先生に言われて作ったというのは失敗が多く、誰が使うか（対象）、何のために使うか（目的）、どういう点に問題があるからこれを使う（課題）かをよく考えなければならないということを説明されました。

講義を受けながら、個別の事例について、ブレインストーミングを行うことで、できるだけアイデアを出した後、似たような意見同士をまとめ、思考の整理を行いました。

### ◆ワークショップの様子



### ①2022年度採択案件の成果について

テーマ:「地域主導のカーボンネガティブを実現する、ロータリ式小型反応炉を用いた熱炭併給事業開発」  
事業者:北酸株式会社  
事業期間:2022年7月~2024年6月

#### 【目的】

二酸化炭素を主とするGHG排出量増大の影響から、年々深刻化する気候変動に対し、地域レベルの新エネルギー体系構築によって対峙すると同時に、地域が抱える複数の課題解決を実現する。

#### 【概要】

解決を目指す地域課題:

- ①気候変動の深刻化により暖冬と厳冬が並走する中、エネルギーの脱炭素化が求められているが、原発は未だ稼働せず、降雪時には太陽光発電は機能しない。暖房用にバイオマスの燃焼は非常に有効ながら、安価なバイオマス燃料や使いやすいバイオマスエネルギー変換装置が存在していないため、バイオマスエネルギーの普及は進んでいない。
- ②地域には農業由来の未利用バイオマスが多量に存在しているが、野焼き規制の強化によって廃棄物扱いとなり、多大な廃棄物処理費用が農業経営を圧迫している。
- ③円安や国力の低下によって、農業資材の価格高騰が著しく、農業の持続可能性が危ぶまれている。

開発概要:地域に賦存する様々なバイオマスを、多大な加工工程を経ることなく、手軽に熱エネルギーに変換でき、燃焼後には農業資材として、並びに空気中の炭素固定としても有効に活用ができる「バイオ炭」を生成することができる装置、及び資源循環システムの開発を推進した。

#### 【実施内容/成果-課題】

実施内容:欧州で販売されている、バイオマスバーナーを利用した熱エネルギー変換機器(バイオマスヒーター)をベースに、河川樹林、果樹剪定枝、蕎麦殻、籾殻等、様々な未利用バイオマスを利用可能とすべく、ハード・ソフトの最適化を実施した。

- ①河川樹、果樹剪定枝は、乾燥→チップ化の工程を経ても、燃料閉塞の問題が発生した。トレファクション処理によって解決できたが、既存のトレファクション処理に必要な装置や法規制が整っていない他、現状ではコストが見合わない。
- ②蕎麦殻は非常に優秀な燃料であり、採熱量、得られるバイオ炭品質共に最高であったが、蕎麦自体の生産量が少なく燃料利用には物量が足りない。
- ③籾殻は米どころの北陸において廃棄物処理問題が非常に大きな課題となっており、発生量が桁外れに多い分状況は深刻である。一方、燃焼条件によって非常に発がん性の高い、結晶性シリカ(クリストパライト、トリジマイト、クォーツ)を生成する他、燃やすと互いに凝集固化し燃焼阻害を発生させる等、燃焼には多くのノウハウが必要となる。本事業において籾殻燃焼を研究、結晶性シリカを生成せず、熱量を最大化させる燃焼レシピの開発に成功した。また、本装置から燃焼残渣として生成する籾殻燻炭を農業資材として利用することで、水捌けと保水能力向上を実現し、灌水の手間を半減させる効果が得られることを確認した。近年、バイオ炭の土壤埋設は、空気中の炭素を土壤長年に固定することとみなされ、Jクレジット認証が得られることとなった為、バイオ炭の価値は向上している。本事業により、現在は不要な籾殻を手軽に熱源として利用でき、同時に利用価値の高いバイオ炭を生成するシステムの開発に成功した。

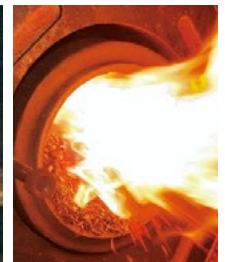
マルチ燃料バイオマスヒーター  
Ventura36CHBC  
(Combined Heat & Bio Char)



Ventura36CHBCによる籾殻燃焼の様子  
(バイオマスバーナー吐出口付近)

未処理籾殻使用  
4.8kW

最適化処理籾殻使用  
9.9kW



Ventura36CHBCにより生成した燻炭  
蕎麦殻燻炭 籾殻燻炭



## ②今年度の採択案件の決定について

北陸地域における産業の高度化及び新産業の創出等に資するため、2021年度から企業や大学等が実施する3年以内の実用化・事業化を目指す申請に対して、『新事業創出助成』を行っています。

今年度も外部の審査委員を交えた厳正な審査を行い、7件の応募の中から、以下の2件を採択しました。

申請概要(タイトル/申請代表者/所在地)	申請内容
変形性膝関節症の治療における 性能評価サービスの事業化  金沢医科大学 総合医学研究所 助教 坂本 卓弥(石川県河北郡)	変形性膝関節症(Knee OA)で、特に中等症に対する明確な治療法は無かったが、近年では脂肪由来幹細胞(ADSC)等を膝の関節腔内へ投与する細胞治療が病院やクリニックで普及している。このような生きた細胞によるKnee OAの治療は、患者数の増加に伴い今後需要が増していくことが予想されている。細胞治療に新しい検査のオプションを提供し、シニアの健康寿命延伸を目指す。
災害復旧時に適用可能な柱材用大口径 ボルトの簡易分離装置の開発  金沢大学 理工研究域 熱機関研究室 准教授 榎本 啓士(石川県金沢市)	古民家では、耐震補強のため、強靱なボルトで主な柱材を固定されているが、災害廃棄物として排出される柱材は、処理速度を向上させるため、破碎される。これらのボルトを適切に分離することができれば、破碎速度の向上と、破碎した材の有効利用割合向上につながる。

# 北陸RDX活動報告 2024.4 ▶ 2024.9

## 第8回ESGファイナンスラボ

金融機関との意見交換の場である第8回ESGファイナンスラボを、7月2日に開催しました。今年度の新規推進計画について、事業者及び担当上級エリアコーディネーターが説明し、有識者(株式会社RICH技術アドバイザー)と意見交換をしました。また、後日、金融機関と個別に意見交換し、支援策を議論しました。

【開催日】 2024年7月2日(火)

【場所】 ANAクラウンプラザホテル金沢 (オンライン併用)

【出席者】 33名

【内容】

- ・新規推進計画の紹介
- ・意見交換
- ・推進計画について、事業者及び各エリアコーディネーターより説明
- ・説明された推進計画に対して、RICH技術アドバイザー陣等によりコメント・アドバイス
- ・RICH技術アドバイザー陣等によるコメント・アドバイスを踏まえ、金融機関より具体的な支援の可能性等についてコメント

■参加者(支援側)

【参画機関】 日本政策投資銀行、商工組合中央金庫、北陸銀行、北國銀行、福井銀行

【協力機関】 三井住友銀行、北陸電力ビジネス・インベストメント、日本政策金融公庫、  
森・濱田松本法律事務所

【オブザーバー】 金融専門家



## 2023年度 事業実績の概要

### 1. プロジェクト実施に必要なコンサルティングおよび支援活動

#### (1) 技術アドバイス・コーディネート活動

- JAIST特任教授（産学官連携本部）として派遣（月2回）
- コーディネーター（事業推進担当）としての活動
- 各種外部委員等の受嘱
  - ・JAIST イノベーションプラザ運営委員
  - ・JAIST ベンチャー・ビジネス研究課題選定・評価委員会委員
  - ・JAIST 超越バイオメディカルDX研究拠点 産学官連携推進会議産学連携推進委員
  - ・金沢工業大学 DXリスキル推進委員会委員
  - ・金沢工業大学金沢市近郊私立大学等の特色化推進プラットフォーム運営委員
  - ・金沢医科大学研究推進センター非常勤講師
- 新型コロナウイルス検出キット販路開拓支援
- 能登珪藻土を活用した電気ピザ窯開発及び販路開拓支援
- 社史製作AI導入支援

#### (2) 北陸3県のヘルスケア産業推進

- 北陸地域におけるフェムテック産業振興の可能性研究会を開催（4回）
- 北陸ヘルスケア産業推進連絡会を開催（1回）

#### (3) 北陸地域における工作機械を中心とした産業高度化連携支援計画

- 2022年度における連携支援計画の実施状況報告書を提出
  - ・支援事業の実績件数 3件（計画件数 3件）
- 3県のIoT、AI相談窓口の情報交換会開催（1回）

#### (4) デジタルシミュレーション人材育成（工作機械産業のDX支援）

- CAEユニバーシティ特別公開フォーラム2023での講演
- 「工作機械企業向けデジタルシミュレーション研修」を開催（1回）

### 2. 新事業創出助成事業（以下の3件を採択）

- 合同会社株坂商事「ECショップ連携自動販売機事業が国内の各種社会問題やインバウンド対応の解決策となる」
- 有限会社小畑製紙所「耐久性と印刷性を兼ね備えた超高耐久性越前和紙の開発」→北陸技術交流テクノフェアとMatching HUB Hokuriku2023へ出展
- 公立小松大学「ベッドサイド型ブレイン・マシン・インタフェースによる脳卒中片麻痺のためのリハビリテーションとその実装」

### 3. 国等の委託・補助事業

#### (1) 経済産業省関連事業

- 産学融合拠点創出事業（産学融合先導モデル拠点創出プログラム）〔2021年度から5年間〕  
「北陸RDX～DXとESG投資による次世代への飛躍～」  
事業概要：北陸地域の産業基盤とDX・ESG投資の融合により地域産業の高度化と新産業創出を導く産学官融合のRDX (Regional Digital Transformation) 拠点を形成する。

- HDxA総会（2回）
- ESGファイナンスラボ（2回）
- RDX人材育成プログラムを実施（全10回）
- 中間報告会（1回）
- 成果報告会（1回）
- 株式会社RICH会社創立記念イベント（11/6）

### 4. 普及啓発活動

#### (1) 技術シーズ（研究成果）の発表会等の開催

- イノベーションシーズ講演会  
産業技術総合研究所の事情により2023年度は中止

#### (2) 講演会・セミナー等の開催

- 北陸産業活性化フォーラム（10/6）

##### ●講演

- ①「来年度から始まる健康日本21第三次を見据えた職域ヘルスケア～女性と若年層のウェルビーイング(健康)の実現に向けて～」

講師：事業構想大学院大学 特任教授

代表 西根 英一 氏

- ②「新しい健康社会の実現 ～健康経営の推進とPHR (Personal Health Record)の活用～」

講師：経済産業省 ヘルスケア産業課

係長 徳増 陽 氏

- バイオデザインワークショップ（1/23-24）

内容：デザイン思考およびバイオデザインの概要、ニーズ調査、コンセプト選定、プロトタイピングに関する講義と演習

講師：東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長

前田 祐二郎 氏

バイオデザイン部門 特任助教

柿花 隆昭 氏

#### (3) 会報誌の発行

- HIAC NEWS112号（9月）

- HIAC NEWS113号（3月）

#### (4) 展示会への出展

- 北陸技術交流テクノフェア（10/19-20）

- 富山県ものづくり総合見本市（10/26-28）

- Matching HUB Hokuriku（11/9-10）

### 5. その他

#### (1) 連絡会議

- 全国地域技術センター連絡協議会（2回）

#### (2) 理事会

- 第37回理事会（6/6）

- 第38回理事会（6/28書面）

- 第39回理事会（3/14）

#### (3) 評議員会

- 第31回評議員会（6/28）

- 第32回評議員会（3/29）

#### (4) 監事監査（5/26）

#### (5) 国等の事業の支援

「Matching HUB Hokuriku」を共催他



# 2024年度 事業計画の概要

## 1. プロジェクト実施に必要なコンサルティングおよび支援活動

### (1) 技術アドバイス・コーディネート活動

産学官金と連携し、伝統産業、高機能新素材、ヘルスケア等の製造業を中心に、北陸の優れた独自技術によりイノベーションを生み出し、新たなビジネスチャンスを創出する事業について支援する。具体的には、コーディネータによるアドバイスや企業・大学間等の技術シーズのマッチングを他機関と連携して展開するとともに、地域企業における事業の高度化に向けたハンズオン支援を実施する。また、能登半島地震からの復興・再生に寄与することを念頭に、国や自治体の補助金制度も活用した中小企業支援に取り組む。

### (2) 北陸3県のヘルスケア産業推進

ヘルスケア産業に関わる北陸3県連携の場として、北陸ヘルスケア産業推進連絡会を開催し、各県の情報交換、国等の委託・補助事業への申請に向けた協議を実施する。

2023年度に設置した「北陸地域におけるフェムテック産業振興の可能性研究会」での議論・検討を踏まえ、2025年度に「北陸ソーシャルフェムテック協議会（仮称）」の設立を目指すこととし、2024年度は設立に向けた準備期間として、組織・体制の整備や産学連携による共同研究の創出、国等の委託・補助事業への申請、普及啓発等に取り組む。

### (3) デジタルシミュレーション人材育成

企業のデジタル化支援として、デジタルシミュレーション技術の向上と適用拡大により、生産性向上や業務革新を支援する。具体的には、北陸地域に集積している工作機械企業を対象に、大学およびCAEベンダーと連携し、企業ニーズを反映したテーマおよびカリキュラムによる「デジタルシミュレーション研修」を企画・実施する。

なお、予算は後述する経済産業省 産学融合拠点創出事業における補助金を充当する。

### (4) 国等の事業への支援（共催、後援等）

国、地方自治体、大学、経済団体、地域団体等が主催または実行委員会を組織して実施する事業で、北陸地域の経済・産業の活性化に寄与する事業について、共催、後援等の支援を実施する。

## 2. 新事業創出助成事業

ベンチャーを含む北陸地域の企業・大学において、実用化を目指す事業や製品開発に対し助成を行う事により、新産業創出に繋がる地域企業・大学の取組みを支援する。

## 3. 国等の委託・補助事業

### (1) 経済産業省関連事業

産学融合拠点創出事業において当財団が代表幹事機関として採択された「北陸RDX ～DXとESG投資による次世代への飛躍～」に引き続き取り組み、北陸地域の産業資源とDXを組み合わせて次世代に向けた新産業を生み出す「Regional Digital Transformation (RDX)」を推進する。

### (2) 中小企業庁 他関連事業

- ・ 前述の「北陸ソーシャルフェムテック協議会（仮称）」の2025年度設立に向けた準備の一環として、同協議会の活動と整合する施策について調査し、申請および採択を目指す。
- ・ 能登半島地震からの復興に寄与するため、中小企業支援等の施策について調査し、申請および採択を目指す。

## 4. 普及啓発活動

### (1) 技術シーズ（研究成果）の発表会等の開催

産学官連携による研究開発を推進する一環として、国立研究開発法人産業技術総合研究所の技術シーズ（研究成果）について発表会等を開催し、北陸地域企業とのマッチングや当財団の活動について理解を深めてもらう。

### (2) 講演会・セミナー等の開催

北陸地域の産業活性化のための課題や当財団の取組みについて理解を深めてもらうため、講演会・セミナー等を開催する。

2022年度、2023年度に実施したバイオデザイン\*ワークショップ（導入編）について、受講者アンケートの結果が好評であったことを踏まえ、2024年度も継続することとし、前述の「北陸ソーシャルフェムテック協議会（仮称）」の2025年度設立に向けた準備の一環として、協議会の参画予定機関を中心に受講者を募る。

\*スタンフォード大学で開発され、ビジネスにイノベーションをもたらす手法であるデザイン思考を用いて、ニーズ探索から事業化に至るまでのステップをカバーする実践的な人材育成プログラム

### (3) 会報誌の発行

賛助会員や関係先を対象に、当財団の事業活動状況や産業の活性化に資する情報提供、賛助会員の事業や製品紹介等に活用するため、会報誌を発行する。

### (4) 展示会への出展

北陸3県において開催される展示会やマッチングイベントに出展し、当財団の事業についてPRするとともに、支援する企業の製品・サービスを展示することにより販売促進やマッチングに資する。

## 5. 「株式会社RDX Incubator Hokuriku (RICH)」との連携

2023年度に設立した「株式会社RICH」へ出資するとともに、当財団とRICHが各々保有する支援ネットワークを相互補完的に活用する等、連携による支援体制を構築することにより、「北陸RDX」の活動を継承し、持続可能な体制を維持することに資する。

## 新賛助会員のご紹介

### 学校法人金沢医科大学

【代表者】	学長 宮澤 克人	【U R L】	<a href="https://www.kanazawa-med.ac.jp/">https://www.kanazawa-med.ac.jp/</a>
【住所】	石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地	【事業内容】	教育・研究・医療
【開学】	1972年(昭和47年)		
【教員数】	460名		
【学生数】	980名		

#### 【沿革】

- ・本学は昭和47年、学都金沢に近い内灘の地に開学しました。開学以来、建学の精神にある「倫理に徹した人間性豊かな医療人の育成」を教育の基本としてきました。
- ・現在、大学院医学研究科、大学院看護学研究科、医学部医学科、看護学部看護学科を設置し、リサーチマインドを持って医療現場に立てる医療人の育成に努めています。
- ・最新の研究設備を備えた総合医学研究所は、各研究領域における独自の研究活動と共に、臨床に直結したプロジェクト研究・共同研究の強化・推進のための研究支援を通じて、本学研究活動の活性化と発展に寄与しています。
- ・令和6年8月には、動物実験の拠点となる新たな研究棟「メディカルリサーチセンター」が竣工しました。従来複数の建物に点在していた動物実験施設及び実験機器を集約し、一元管理することで、臨床と基礎との融合研究が推進されます。
- ・本学はこれからも学生および教職員の教育・研究環境を整備するとともに、先進的・倫理的な医学教育と医学研究を実践する拠点として、医学と医療の進歩に貢献し続けます。



### 国立大学法人金沢大学

【代表者】	学長 和田 隆志	【学生数】	10525人
【住所】	石川県金沢市角間町	【U R L】	<a href="https://www.kanazawa-u.ac.jp/">https://www.kanazawa-u.ac.jp/</a>
【開学】	1949年(昭和24年)5月	【事業内容】	教育・研究・社会貢献
【資本金】	563億円		
【教員数】	1325人		

#### 【沿革】

金沢大学は、1862(文久2)年に創設された加賀藩彦三種痘所を源流とし、旧制第四高等学校などの前身校の歴史と伝統を受け継ぐ総合大学です。豊かな伝統文化が醸成された学都金沢の恵まれた環境に位置します。160年という長い歴史の中で、わが国の高等教育と学術研究の興隆に貢献し、我が国を代表する基幹的の大学へと発展してきました。現在に至るまで、教育、研究およびそれらを基にした社会貢献により地域と世界に資するべく、不断の改革を続けています。諸先輩が築き上げてきた歴史を礎に、金沢大学憲章に掲げる「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」という基本理念に立脚して、金沢大学の揺るぎない未来ビジョンを『志』として、学内並びに社会に示します。



# その他活動報告 2024.4 ▶ 2024.9

## 『実務者向けデジタル人材育成講座』の開講

本講座はデータサイエンスできることやツールを学べる入門者向け講座として、2020年から毎年開催しており、今年が5回目となります。

講座後の復習や、受講できなかった際の補修のため録画した動画を配信し、注目度の高い生成AI活用を取り上げるなど、講座内容に工夫を加えた結果、受講者アンケートでは好評の声が多く聞かれました。

開催日・内容	開催日	各回の講座テーマ
	第1回 7月 5日 (水)	講座の全体概要およびデータの収集・分析・プレゼンテーションの基礎知識 [講義・演習]
	第2回 7月12日 (水)	ビジュアル系デジタル技術の基礎知識 [講義・演習]
	第3回 7月19日 (水)	プログラミングとAI・機械学習の基礎知識 [講義・演習]
	第4回 7月26日 (水)	センサー・通信・IoTの基礎知識 [講義・演習]

【開催方法】 オンライン

【講師】 富山大学 名誉教授・特別研究教授 中川 大 氏

【受講者】 67名 (講義演習60名、講義のみ7名)

【後援】 富山大学

## 技術アドバイス・コーディネート活動の実施状況

当財団が申請の支援をした株式会社大本久盛館(白山市)の「地域資源を活用した睡眠の質向上(ストレス解消)精油の開発」が一般財団法人石川県産業創出支援機構の「令和6年度成長戦略ファンド 地域資源活用・社会課題解決支援枠」の「新商品・新サービス開発支援事業」に採択されました。

この補助金は石川県の地域資源を活用した新商品・新サービス、または社会課題の解決に向けた新商品・新サービスの開発から販路開拓に要する事業に助成するもので、同社は石川県の間伐材、スギ、能登ヒバなどの地域資源を活用し、睡眠の質向上(ストレス解消)精油の開発を実施します。

## 2024年10月以降の主な行事予定

行事名	開催日	開催場所
産業技術総合研究所 イノベーションシーズ講演会	10月3日(木)	富山県民会館
北陸技術交流テクノフェア2024【出展】	10月17日(木)～18日(金)	福井県産業会館
第2回「フェムテック産業振興研究会」	10月25日(金)	オンライン
Matching HUB Hokuriku 2024【出展】	11月13日(水)	ANAクラウンプラザホテル金沢
デジタルシミュレーション研修	11月27日(水)～28日(木)	北国ビルディング
第3回「フェムテック産業振興研究会」	12月13日(金)	オンライン
北陸DXアライアンス(HDxA) 第8回総会	1月21日(火)	ホテル金沢
第4回「フェムテック産業振興研究会」	2月28日(金)	ハイブリッド
北陸産業活性化フォーラム	3月4日(火)	ホテル金沢
第3回 北陸ヘルスケア産業推進連絡会	3月	オンライン
第41回理事会	3月	金沢市内
第34回評議員会	3月	金沢市内

ホームページでも各種講演会やセミナーなどを随時ご案内しております。ぜひご覧ください。

# 株式会社ケーブルテレビ富山

創業	1994年(平成6年)4月	事業内容	放送法に基づく一般放送事業 電気通信事業法に基づく電気通信事業など
所在地	富山県富山市桜橋通り3番1号 富山電気ビル	ホームページ	https://ctt.ne.jp
資本金	20億1,060万円		
従業員	122名		



代表取締役社長  
上野 等氏

4月に創立30周年を迎え、地域情報発信と情報基盤づくりに取り組むケーブルテレビ富山様にお話を伺いました。

## ■ 弊社概要

弊社は1994年に富山県、富山市をはじめ地元経済界の出資のもとケーブルテレビ会社として設立され、1996年4月から富山市内中心部で放送サービス(地上波・BS、多チャンネル、当社自主放送番組)を開始しました。

その後、テレビサービスに加え、2000年にインターネットサービス、また、電話やスマートフォンなどのサービス提供を順次拡充してきました。さらにサービスエリア全域に光ケーブルを敷設する(FTTH)とともに、2021年には無線サービスのローカル5Gを開始し、地域の情報インフラの基盤整備に努めております。

## ■ 事業内容

### ▶ インターネットサービス

#### 超高速光インターネットサービス

上り下り最大速度10Gbpsの超高速回線を富山市で最初に提供開始しました。

サービスエリア全域に快適な光インターネットライフをお届けしています。

### ▶ テレビサービス

#### 地上波・BS放送／専門チャンネル／4K放送

県内民放、NHKはもちろん、北陸朝日放送、BSデジタル放送を家中のテレビでご覧いただけます。

また、ドラマ、アニメ、映画、スポーツ、音楽などの家族みんなで楽しめる専門チャンネルが充実の最大45チャンネル視聴でき、専用の機器を取り付ければ、高画質の4K放送もお楽しみいただけます。

#### コミュニティチャンネル

「市民により身近な」「市民を元気にする」「市民に役立つ」チャンネルを目指し、地元ならではの情報はもちろん、県や市と協力し、行政関連情報など暮らしに役立つ情報の配信や、市民参加による番組の制作など地域に密着した幅広い分野の番組制作・配信を行っています。

### ▶ 固定電話サービス

#### ケーブルプラス電話(KDDI)／ケーブルライン(ソフトバンク)

KDDI、ソフトバンクとの提携によりNTT一般固定電話と同



コミュニティチャンネル「Cue! スタジオ」

品質で低価格な電話サービスを提供しています。

### ▶ ケーブルスマホ

ドコモ回線、au回線の2種類を用意したスマートフォンサービスで、月額935円(税込)から安心して全国でご利用いただけます。また、シンプルで大きな画面のオリジナルホームアプリ「かんたんスマホ」はスマホ初心者の方にも使いやすいと好評です。

## ■ 新たな事業領域の拡大

有線放送サービスからスタートしたケーブルテレビ業界を取り巻く環境は、少子高齢化、デジタル化の進展など、さまざまな面で大きく変化しております。こうした中で、地域に密着した情報通信事業者として、地域DXなど、新たな事業領域を拡大すべく日々取り組んでおります。

近年では、全国のケーブルテレビの番組がアプリで視聴できる動画配信サービス「ロコテレ動画」や、地域情報を掲載するWebサイト「toieba」(トイエバ)の運用を開始するなど様々なメディアを組み合わせた情報発信にも挑戦しております。

今後は法人向け事業にも力を入れ、番組制作で培われたコンテンツ制作やプロモーション支援、また、通信事業のノウハウを活かしたローカル5Gなどの運用支援、IoTセンサーや監視カメラシステム等、お客様や地域の課題を先進的なICTソリューションと地域に根ざした総合力で解決したいと考えております。

